## 黙想の祈り:年間第 20主日(B年)

黙想のテーマ:「時間を贖う」「聖体は永遠のいのちの証」「キリストは私たち皆が捜し求める以上のものを与える|

- 一時間を贖う。
- 一聖体は永遠のいのちの証。

ーキリストは私たち皆が捜し求める 以上のものを与える。 第二朗読において聖パウロが「愚か な者としてではなく、賢い者とし て、細かく気を配って歩みなさい| (エフェソ5・15)と言っています。そ して、愚か者と賢い者の違いを判断 し、賢い者は、「時をよく用いる」 (エフェソ5・16)と加えています。事 実、少し立ち止まってよく考えると 「定められた時は迫っている」(1コ リント7・29)ことに気づくでしょ う。ですから、無為に過ごした時、 愚かな振る舞いですばらしい宝物を 失ったと感じることでしょう。生き るとは、この世の旅路のため与えら れた時間に投資することです。この 投資に成功する人が賢い者です。 「時というものは、険しい岸壁をつ たう水のように指の間をすり抜けて 消える宝、訪れては去り行く宝で す。昨日は過ぎ去り、今日も去りつ つあります。明日という日もまもな くきのうになってしまう。人の一生 とは短いものです。しかし神の愛の

ためであれば、わずかな時間しかな

くても沢山のことを成就できます」 <sup>111</sup>。

この世の知恵は神の知恵ではありま せん。時を贖うとは、多くの事をす ることではなく、また、だいたい満 足のいくような経験を積むことでも ありません。人となった神の知恵で あるイエスが、時を贖う論理を説明 します。「自分の命を救いたいと思 うものは、それを失うが、わたしの ためにいのちを失うものは、それを 得る。人は、たとえ全世界を手に入 れても、自分の命を失ったら、何の 得があろうか。自分の命を買い戻す のに、どんな代価を支払い得よう か」(マタイ16・25-26)。主に自分を 委ねる時、主の贈りものの時間を主 の御手にお返しする時、私たちの時 間を主が贖ってくださるのです。

「だから、無分別な者とならず、主の御心が何であるかを悟りなさい」 (エフェソ5·17)と聖パウロが言っています。み旨を示されるキリストご

自身が、裁判官としてお出でになる 時、一人ひとりに与えられた時間を どのように使ったかをお尋ねになり ます。その裁きは、周知のように、 他の人々への奉什を基にして行われ ます。「私の兄弟であるこの最も小 さい者の一人にしたのは、わたしに してくれたことなのである| (マタイ 25・40)。助けを必要としている人々 のために時間を使うことは、イエス のために使うことですから、時間を 贖ったことになります。こうして、 永遠のいのちを得ることになり、私 たちの行為は永遠に豊かなものにな るのです。「さあ、急いで愛を実行 しなさい | [2]と聖ホセマリアが励ま しています。これはもっとも理に 適った勧めです。これは「金貨を手 にすると、多分、失くさないよう気 を遣う。魂の小銭は与えないと無く なる上ょことを知っている人特有の 考えです。

聖書が語る知恵とは、単に知性に関 することだけではありません。例え ば〈知恵〉という言葉は、感覚と、 具体的には味覚と関連づけられてい ます。知者は人生を味わい、自らが 生きている時間を味わいます。実 際、今日のミサの第一朗読は、「考 えの浅い人」のため御馳走を準備す る女性になぞらえて、知恵を提示し ます。彼女は言います。「わたしの パンを食べ、わたしが調合した酒を 飲むがよい。浅はかさを捨て、命を 得るために、分別の道を進むため に | (箴言9·5-6)。この表現は、神の 知恵・みことばによって整えられ た、聖体祭儀を思い起こさせます。 そして福音におけるいのちのパンに ついての話の場面では、移ろいやす い愚かな事と永遠のために生きる知 恵が比較されます。「朽ちる食べ物 のためではなく、いつまでもなくな らないで、永遠の命に至る食べ物の ために働きなさい。これこそ、人の 子があなたがたに与える食べ物であ

る。(…) わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである」(ヨハネ6・27-51)。

主が〈食べ物〉について話されると き、それは私たちの生活に意味をも たらすものについて言及していま す。飢えや渇きは、私たちが目指 す、いのちの充満である幸せへの望 みの一端を表しています。それに関 して、イエスは、主が私たちにお与 えになる食べ物を除いては、何も私 たちを心底、満足させることはでき ず、聖体を頂く者だけが「飢えるこ とがない」(ヨハネ6・35)と確言され ます。井戸に水を汲みに来たサマリ ア婦人に言われたことと似ていま す。「この水を飲む者はだれでもま た渇く。しかし、わたしが与える水 を飲む者は決して渇かない。わたし が与える水はその人の内で泉とな

り、永遠の命に至る水がわきでる| (ヨハネ4・13-14)。 周りのものが全て 古くなっていく中で、永遠を約束す る聖体を私たちにお与えになりま す。それは教会が教えているように 「永遠のいのちのしるし」畑であ り、すでに今、ある程度それに触 れ、味わうことができます。聖体に おけるイエスは神の賜であり、この 地上ですでに、永遠で日々を満た し、私たちの時間を贖うため、与え られたのです。「だからこそ、ミサ 聖祭はキリスト信者の生活の中心で あり拠り所なのです。(…) キリスト は道であり仲介者です。キリストに は全てが見出されます。キリストと 一緒でなければ、私たちの生活は空 しくなることでしょう

いのちのパンの話が終わると多くの 人たちが言いました。「実にひどい

話だ。だれが、こんな話を聞いてい られようか | (ヨハネ6・60)。ヨハネ は続けます。「このために、弟子た ちの多くが離れ去り、もはやイエス と共に歩まなくなった|(ヨハネ6・ 66)。時々、聖体だけを糧にすること は難しいと感じることがあるかもし れません。そのような時には、ある 程度の満足感を与える他の〈糧〉を 探すことがあるかもしれません。し かし、それらはよいものであったと しても、私たちに十分な満足を与え ることはないでしょう。また場合に よっては、「聖体をあいまいで、私 たちとはかけ離れたものにしてしま うこと | があるかもしれません。 「多分それは、香の煙に包まれ、輝 かしく神々しいでしょうが、さまざ まな問題のある日常の生活状況とは かけ離れたもの上颌になってしまっ

キリストは、まず、私たちが心から 満足することに関心をお持ちです。

ています。

人々の種々の心配事に無関心のまま ではおられないお姿を、福音書で確 認できます。単に霊的な問題だけで はなく、通りがかりに出遭うもっと もこの世的な事にも、助けの手を差 し伸べられます。婚宴の席を喜びで 満たすため、水をブドウ酒に変え、 聴衆にひもじい思いをさせないため パンと魚を増やし、弟子たちを落ち 着かせるために嵐を静められまし た。イエスは、聖体において、それ 以上の業を行われます。それは、単 に多かれ少なかれ難しい状態に耐え るための力を与えるだけではありま せん。神ご自身、私たちの生活に入 り込むという恵みなのです。

「私たちに食物が必要なことは確かです。しかし愛によって食物が与えられたと知って満足することも必要です。キリストの御体と御血において、主の現存を実感し、私たち一人ひとりに差し出される主のいのちを体験するのです。単に、前進するた

め助けてくださるだけではなく、ご 自身をお与えになります。そして、 私たちの道連れとなって、私たちの 歩みに入り込み、孤独な私たちを訪 れ、私たちの生活に新たな意味を与 え、生き方を高め強めます。私たち の人生における暗闇や疑問に、主が 意味を与えられる時、私たちは満足 します。しかし、それは主が考えら れる意味であって、そしてまさにこ のことが私たちを満足させるので す。それは皆が求めている〈より価 値あるもの〉を与えます。つまり、 それは主の現存です。主の現存の温 かさによって私たちは生活を変える ことができるからです。主不在の人 生は、実に味気ないものになるで しょう 1 77。最初にキリストをお受 けになった方、聖マリアは、私たち が主に助けをお願いするため、聖体 に近づくよう助けてくださるでしょ う。

- [1] 聖ホセマリア『神の朋友』52 番。
- [2] 聖ホセマリア『神の朋友』40 番。
- [3] Antonio Machado, Soledades, LVII.II.
- [<u>4</u>] 第二バチカン公会議「典礼憲章」37番。
- <u>[5]</u> 聖ホセマリア『知識の香』102 番。
- [6] フランシスコ、「お告げの祈り」でのことば、2022年6月19日。
- [7] 同。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-nenkann-20shujitu-b/(2025/12/16)